

広報 みはま



主な記事

- 新年のごあいさつ P 2～3
- 特集・継がれゆく灯 P 4～15
- 年男・年女の皆さんの新年の一言 P 16～17

Jan.2011

1

No.480



引き続き「第四次美浜町総合振興計画」の 実現に向けて

美浜町長

山口 治太郎

Yamaguchi Jitarō

行政

町民の皆様、新年明けましておめでとうございます。すがすがしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

日頃は、町行政の発展につきまして各般にわたりご協力とご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、年頭にあたりまして、本町の昨年中の取り組みを振り返りながら新年の抱負等を述べさせていただきますと存じます。

本町のまちづくりは、平成17年度に策定しました第四次美浜町総合振興計画に基づき進めており、今年度は「人と町を元気に」を行政テーマに掲げ、各種施策を積極的・着実に展開してきました。

その一環として、美浜五木ひろしマラソンや町民レガッタ等を通して、人と人との交流を推進し、元気な人・元気な町づくりに取り組んできました。

また、町民の健康づくりと子育て支援についても、昨年度に創設しました「すくすく美浜つ子サポート事業」の充実はもとより、新たに子宮頸がん予防ワクチン接種等の費用の助成等、更なる充実を図っていききたいと考えています。

せせらぎ保育園の整備につきましては、現在の中央公民館が老朽化等の問題から解体することになり、その跡地に新しい施設の建設を予定し

ています。

今回の中央公民館の解体に伴い、町民の皆様には大変ご不便をお掛けすることになりますが、新しい生涯学習センターが完成するまでご理解とご協力をいただきたく、よろしくお願ひ申し上げます。新しい生涯学習センターは、これまでの中央公民館と図書館及び文化ホールの機能を兼ね備えた複合施設として役場庁舎の西側に建設するものです。既に建物の実施設計を終えており、今後の予算措置を見極め事業に着手したいと考えています。

次に、学校教育に関しては、耐震上、補強が必要とされた弥美小学校校舎の改修工事がこの3月の卒業式までに完成する予定であり、また、老朽化が進んでいる南小学校体育館につきましても、4月から改築工事に着手することにしており、「安全・安心な教育環境づくり」の充実はもとより、学力・教育力の向上にも努めてまいりたいと考えています。

次に、近年の異常気象による大雨・地震・土砂災害に備えた自主防災組織の結成や、要援護者対策についてもより強力に推進し、災害に強いまちづくりに努めてまいりたいと考えています。

年々深刻な被害となっている有害鳥獣問題につきましては、町民、行政、議会が一丸となって取り組む必

要があり、進入防止の恒久柵、捕獲檻等の設置をはじめ種々対策を講じてまいりたいと考えています。

産業振興においては、農林水産業の更なる振興はもとより、観光においては体験型観光の充実を図るとともに、観光資源の発掘と活用について積極的に取り組んでいきたいと考えています。また、企業誘致や商工業の振興、若者定住対策についても引き続き取り組んでいく所存であります。

最後に原子力行政であります、関西電力(株)美浜発電所1号機については、昨年11月28日で丸40年を迎え、熟慮の結果、40年を超えての運転を10年程度延長することに町として了承したところであります。また併せて、後継機の設置可能性調査にも地元の理解を得ながら、速やかに実施いただき早期に構想を示すよう事業者に求めたところです。原子力と共生するまちとして、またパイオニアとして「安全文化の発祥の地」となるよう事業者の更なる努力を求めていく所存であります。

今後とも本町発展のため、ご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり町民皆様のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



美浜町議会議長
北村 晋

Kitamura Susumu

議会

「開かれた議会」で 住民ニーズを町政へ

町民の皆様、新年明けましておめでとうございます。

輝かしい新春を迎え、町議会を代表いたしましたして、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、町政に対するあたたかいご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年11月、関西電力(株)美浜発電所1号機が運転開始から40年を迎え、最長10年の継続運転を了承する運びとなり、あわせて後継機設置の可能性について検討するための自主調査が開始されることになりました。資源の乏しい我が国にとって、エネルギー安定供給や地球環境問題という観点から原子力発電の重要性はますます高まっておりますが、町民の皆様が安心して暮らせるよう、議会として国や事業者に安全対策の強化を強く求めてまいり所存です。

ここに新年を迎え、本町の更なる躍進を期して清新の気がみなぎるのを覚えます。

長引く経済不況、深刻化する少子高齢化等の厳しい状況に加え、全国的に自然災害も多く発生しております。また、「地域主権改革」も具体的な動きを見せはじめ、多様化する住民ニーズに対応するための地域や行政のあり方が問われています。

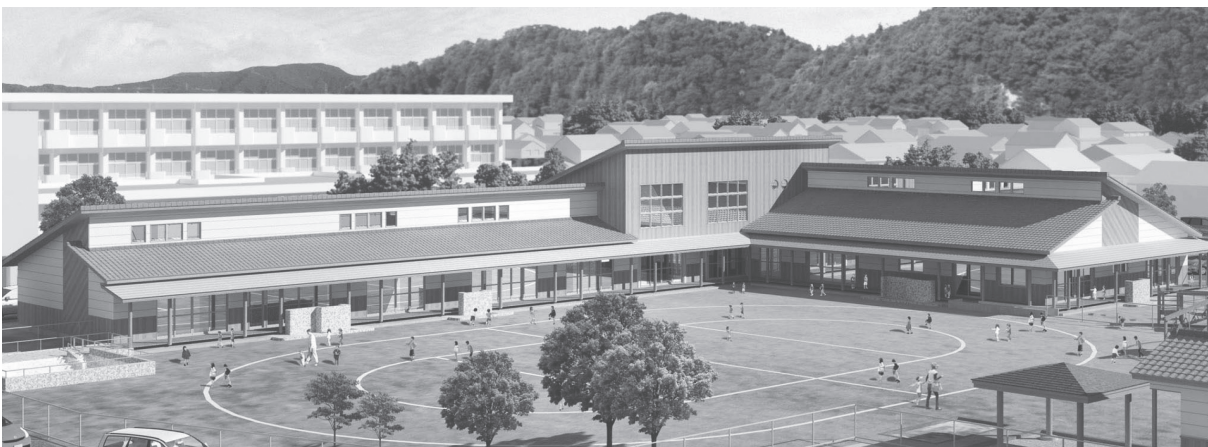
このような時代ゆえに、町議会は

変わらねばならないと考えます。山積する町の課題に対し、議員相互で活発に討議するだけでなく、町民の皆様と対話しながらこれらに立ち向かわねばなりません。そのためには先ず、町民の皆様が議会を知っていただくための取り組みが必要と考えます。

昨年春より議会では「美浜町議会だより」を発行し、議会での審議の内容をはじめ、町の動きや議会の活動等をお知らせしております。また、ケーブルテレビによる議会放映もございますが、議会の透明性を高めるためには、私たち議員がもっと知恵を絞り、汗を流す必要があると考えます。本年は更なる情報発信について検討しながら、前議長から引き継いだ「開かれた議会」に向けて進んでまいりたいと思っております。

そして町民の皆様のご意見を町政に反映できるよう、行政と時には競い合い、時には協力し合いながら、「責任」ある議会を目指して行動していきます。

結びに、魅力ある町・美浜のために、本年も相変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。新年のご挨拶といたします。



↑せせらぎ保育園完成イメージ図(あくまでも現時点でのイメージですので、今後変更となる場合があります)



かつて、陸の孤島といわれた敦賀半島の先端。

そこに突如、原子力発電所建設の話が持ち上がった。

話を聞いた地域、そして住民たちは戸惑った。

原子力発電所とは、一体どういうものか……。

しかし、先人たちは前を見据え、幾度となく話し合った。

結果、誘致に至り、やがて発電所が建設された。

まちは体制を整え、自分たちの目で地域の安全を確認し
続け、その意思は今も受け継がれる。

日本が沸いた大阪万博から40年。

原子力のパイオニアとしてリードする我が町は、

「原子力と共生するまち」を目指し、

迷わず歩み続ける。

あれから、そしてこれからも……。